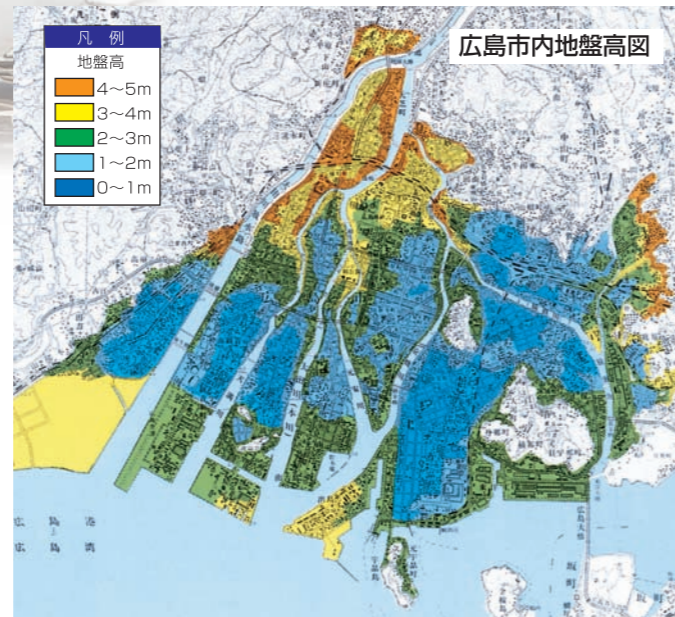


太田川の治水（高潮対策）

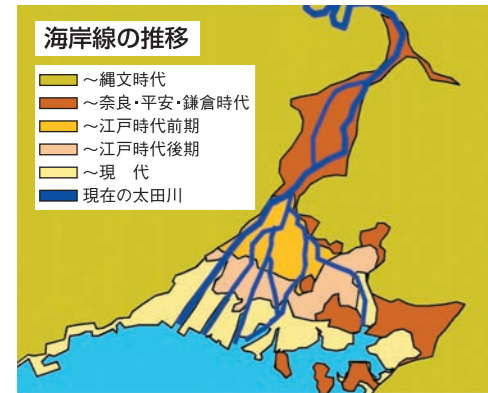
高潮対策事業

広島市中心部は、太田川デルタ上に発達した都市で市街地の多くは地盤が低く、また、広島湾が南に向いて開いていることから、高潮に対してきわめて不利な地形条件にあります。このため台風などの襲来により、これまでも数多くの高潮被害を受けてきました。

そこで、伊勢湾台風級の台風が襲来した場合にも、広島市内を安全に高潮被害から防御できるよう、太田川放水路および市内派川において高潮堤防を建設する「高潮対策事業」を昭和55年から実施しています。また、阪神・淡路大震災を契機に、平成7年度から堤防の耐震化対策を実施しています。



この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の20万分1地勢図、5万分1地形図を複製したものである。(承認番号 平18 中複 第265号)



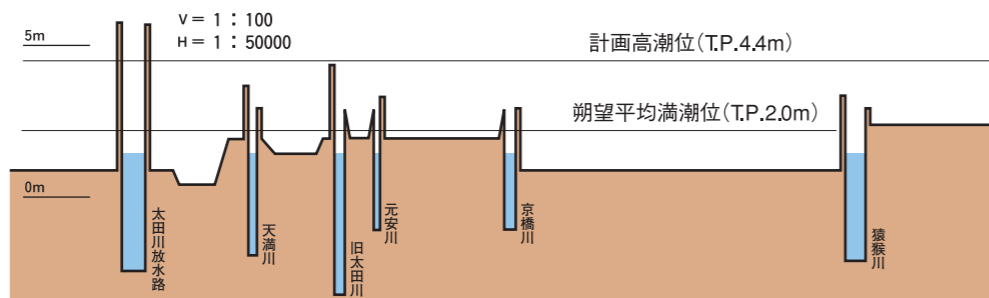
デルタの成り立ち

原始・古代、ほとんどが海中にあった現在の広島市中心部に太田川から流れ出た土砂が積もり、砂洲や自然堤防ができ、中世頃にはデルタ(三角州)の上流部分が形成されました。その後、16世紀末に毛利輝元の広島築城を契機として、デルタは安芸国の政治・経済の中心地となっていきました。江戸時代に入り、太田川下流への干拓と城下町としての整備が加速し、近代の大規模な埋立てとともに現在の広島市が形成されました。太田川の歴史は、そのまま広島市の歴史となっています。

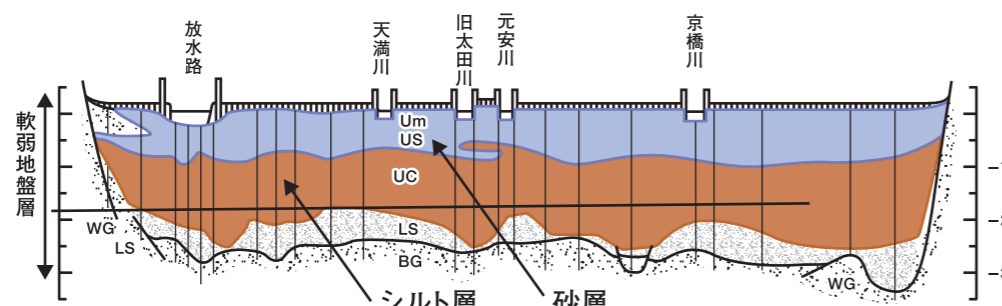
デルタの特徴

広島市の政治経済の中心として人口・資産の集中する広島市の多くは、江戸時代以降に干拓や埋立てにより造られた、いわゆるゼロメートル地帯と呼ばれる地盤の低い地域です。また、この地域は太田川デルタの軟弱地盤上にあり、地震による液状化等により堤防が被災し浸水が発生する恐れがあります。太田川河川事務所では、このような広島デルタ地帯を高潮被害から防御するため、高潮堤防の建設と堤防の耐震化対策に取り組んでいます。

潮位と河川堤防の比較 (整備前)



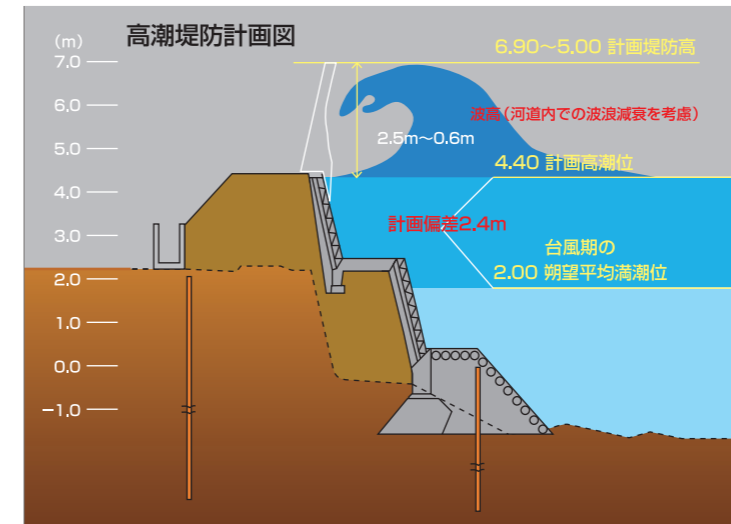
デルタ横断面図



高潮対策計画

太田川の高潮対策は、伊勢湾台風級の台風が広島湾を通過した場合に起こる高潮にも安全に対処し得るよう、台風期期望平均満潮位 T.P.2.0mに計画偏差2.4mを加えたT.P.4.4mを計画潮位とし、計画波高0.6~2.5m(河道内の波の減衰を考慮)を加えた高潮堤防を建設する計画です。

(T.P.:東京湾平均海面を0mとした高さの基準で、一般に標高と呼ばれています。)
(計画偏差:台風時の風による吹き寄せと気圧低下による吸い上げのため通常の潮位より上昇する高さ。)



高潮対策の効果

大規模な高潮浸水被害が発生した平成3年9月の台風19号に比べ、これを上回る既往最高潮位T.P. 2.96mを記録した平成16年9月の台風18号の浸水範囲は明らかに減少しています。これはこの間に進んだ高潮対策事業の効果によるものと考えられます。

また、高潮堤防整備は水位上昇や波浪による浸水被害を解消するだけでなく、老朽化や潮の干満の影響により弱体化した護岸を補強する役割もあります。

また、堤防完成箇所は水辺の散策や通勤・通学にも利用されており、良好な生活空間を創出するフィールドとなっています。

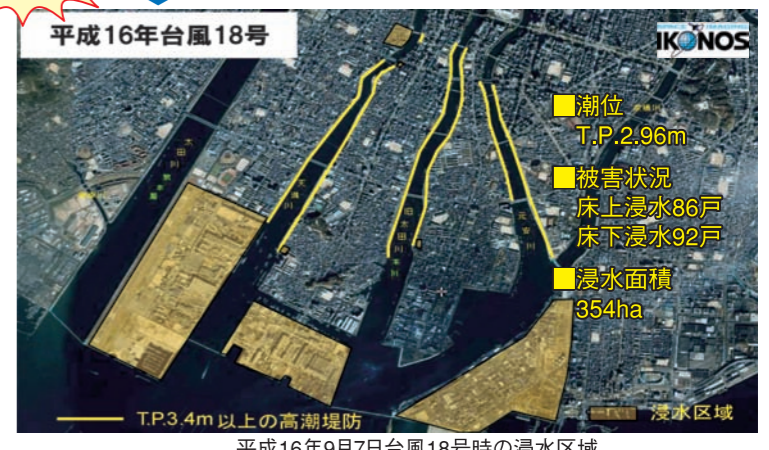
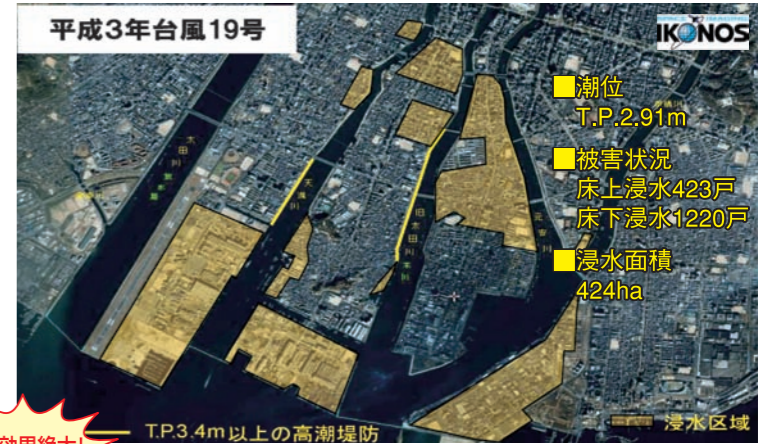


元安川における高潮堤防整備状況

整備事例と整備箇所



| 河川名 | 計画延長 | 再度災害防止区間延長 | T.P.3.4m整備延長 | 進捗率 (%) |
|------|---------|------------|--------------|---------|
| 元安川 | 6,100m | 3,980m | 3,980m | 100.0 |
| 旧太田川 | 8,000m | 1,600m | 1,600m | 100.0 |
| 天満川 | 10,000m | 5,250m | 4,730m | 90.1 |
| 放水路 | 4,200m | — | — | — |
| 合計 | 28,300m | 10,830m | 10,310m | 95.2 |



堤防効果絶大! 浸水被害激減!